製品安全データシート

新規作成　：1993年12月16日
改訂　　　：2014年 6月11日

１．製品及び会社情報

製品名　　　　　：ＡＴ－１

製造者情報　　会社名　：三菱製紙株式会社
住所　　：〒130-0026　東京都墨田区両国２丁目１０番１４号
担当部門：技術環境部
問い合わせ窓口：イメージング事業部
印刷感材営業部　　　（電話番号：03-5600-1475）

奨励用途及び使用上の制限　：シルバーマスター、シルバーディジプレート印刷インキ用添加剤

２．危険有害性の要約

ＧＨＳ分類

物理化学的危険性	：分類基準に該当しないまたは分類できない	
健康に対する有害性	：皮膚腐食性／刺激性	区分２
	眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	区分２Ａ
	生殖毒性	区分２
	特定標的臓器／全身毒性（単回暴露）（中枢神経）	区分２
環境に対する有害性	：水生環境有害性（急性）	区分１
	水生環境有害性（慢性）	区分２

ラベル要素

感嘆符　　健康有害性　　環境

注意喚起語　：　警告

危険有害性情報　：　重篤な眼への刺激性
水生生物に非常に強い毒性あり
長期的影響により水生生物に有害
生殖能または胎児への悪影響のおそれの疑い
臓器の障害のおそれ（中枢神経）
皮膚刺激

注意書き

不浸透性保護手袋、保護眼鏡、保護マスク、保護衣を着用すること。
環境への放出を避けること。
すべての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。

使用前に取扱説明書を入手すること。
指定された個人用保護具を使用すること。
この製品を扱う時、飲食または喫煙をしないこと。
粉じん／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーを吸入しないこと。
屋外または換気のよい場所でのみ使用すること。
取扱い後は手をよく洗うこと。

３． 組成・成分情報

単一製品・混合物の区別 ： 混合物
一般名 ： インキ添加剤
成分及び含有量

	官報公示整理番号	Cas No.	含有量%
ロジン変性フェノール樹脂	既存	－	
混合物（上記・下記）			６０－７０
エチレングリコールエーテル類	(2)-422	112-34-5	
ポリオキシエチレンオクチルフェニルエーテル＊	(7)-172	9036-19-5	２２．５
ポリオキシエチレンノニルフェニルエーテル ＊	(7)-172	9016-45-9	７．５

＊ポリオキシエチレンオクチルフェニルエーテル　化管法　第１種　No.408
＊ポリオキシエチレンノニルフェニルエーテル　化管法　第１種　No.410

４．応急処置

吸入した場合 ：吸入の可能性は少ないが、大量のミストを吸入した場合は、速やかに空気の新鮮な場所に移動してください。異常を感じた場合は医師の診察を受けてください。
皮膚に付着した場合：接触すると炎症をおこすことがあります。直ちに石鹸を用いきれいな流水で洗い流してください。
目に入った場合 ：直ちにきれいな流水で１５分以上洗い、炎症が残っているようでしたら医師の診察を受けてください。
洗浄の際、まぶたを指でよく開いて、眼球、まぶたのすみずみまで水がよく行きわたるように洗浄してください。コンタクトレンズを使用している場合は、固着していない限り、取り除いて洗浄を続けてください。
誤飲した場合 ：直ちに医師の診察を受けてください。
水でよく口の中を洗浄し、大量の水を飲ませて、直ちに医師の手当を受けてください。 意識があっても無理に吐かせないようにしてください。

５． 火災時の措置

消火剤 ：ドライケミカル、炭酸ガス
使ってはならない消火剤：水
特定の消火方法：禁水、灯油火災と同様の扱いをして下さい。
保護具等 ：消火の際は自給式呼吸器具及び完全保護具を着用して下さい。
風上から消火活動を行って下さい。

６．漏出時の措置

人体に対する注意事項：火気厳禁にし、漏出した場所の周辺にロープを張るなどして関係者以外の立ち入りを禁止してください。保護具（送気マスク、空気呼吸器、保護手袋、ゴーグル型保護眼鏡、保護面、安全帽、長袖保護服、保護長靴など）を必ず着用して回収してください。風上で作業して下さい。多量の場合は、人を安全に避難させてください。

環境に対する注意事項：火気厳禁にし、ごく少量の場合は、ぼろ布やウエスを用いて拭き取ってください。量が多い場合も、保護具を着用し砂または不燃性吸収剤などを使用して回収してください。漏出した液体や洗浄に使用した汚染水が河川等に排出され、環境に影響を及ぼさないよう注意してください。

除去方法　　　　　　：砂または不燃性吸収剤で吸収し、空容器に回収してください。
回収した液を廃棄する場合は関係法規に従ってください。

７．取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策：目や皮膚に接触すると炎症を引き起こすことがありますので適切な保護具（保護眼鏡、保護手袋）を着用し取扱ってください。

局所排気・全体換気：強制換気による換気を行ってください。

注意事項　：取扱いは十分な換気のもとで行ってください。

保管　　　　：涼しい場所に置いてください。
引火性がありますので火の気のないところに保管してください。
子供の手の届くところには置かないでください。

８．暴露防止及び保護措置

設備対策：局所排気装置等　強制換気による換気を行ってください

管理濃度　安衛法管理濃度　：　未設定。

許容濃度：日本産業衛生学会　　記載なし
ＡＣＧＩＨ　　　　　記載なし

保護具　：呼吸器　保護マスク
手　　　保護ゴム手袋
目　　　保護眼鏡
皮膚及び身体　保護衣

９．物理的及び化学的性質

形状　：粘彫な液体　　　　　　　　色　：薄黄色
臭い　：若干あり　　　　　　　　　ｐＨ（at25℃）：　－
沸点　：未確認　　　　　　　　　　融点：＜－４℃
引火点：142℃
自然発火温度：データなし
燃焼または爆発範囲：データなし
蒸気圧：無視できる程度　　　　　　蒸気密度：データなし
比重(at25℃)：０．９５－１．０５
溶解度：水に不溶。石油系溶剤に可溶　　オクタノール／水分配係数：データなし
分解温度：データなし

１０．安定性及び反応性

安定性：通常の取扱い条件下では安定である。

反応性：特になし

避けるべき条件：高温、直射日光

混触禁忌物質：特になし

分解による有害性：特になし

１１．有害性情報

急性毒性LD50：実測値はないが、成分から推定した値では2000mg/Kg（ラット経口）以上。

皮膚腐食性・刺激性：アレルギー性皮膚反応を引き起こす恐れがある。

・ポリオキシエチレンノニルフェニルエーテル

CERI・NITE有害性評価書 No.96 (2004)のウサギを用いた皮膚刺激性試験の記述に、エチレンオキシドの付加モル数2～9の場合の原液が、「中等度から強度の刺激性を示した」とあることから、適用時間は不明であるが、区分2とした。

眼に対する重篤な損傷性・眼刺激性：

･エチレングリコールエーテル類

ウサギ眼に適用した試験で中等度の刺激性と組織損傷を示したが、14日以内に回復したと述べられ（ECETOC TR. 64(1995)、PATTY(5th, 2001)）、別の試験では強い刺激性（highly irritating）が報告されている（IUCLID(2000)）。これらの結果に基づき区分２とした。

・ポリオキシエチレンノニルフェニルエーテル

CERI・NITE有害性評価書 No.96 (2004)の記述に、ウサギを用いた眼刺激性試験 のエチレンオキシドの付加モル数2～15の場合の原液が「中等度から強度の刺激性を示した」とあることから、「強い刺激性を有する」と考え、区分2Ａとした。

･ポリオキシエチレンオクチルフェニルエーテル

CERIハザードデータ集 2001-42 (2002) のウサギを用いた眼刺激性試験の結果の記述に「中等度の刺激性を示す」とあり、CERI・NITE有害性評価書 No.105 (2006) のウサギを用いたDraize法による試験の結果の記述に「OPE1、OPE3は軽度の刺激性、OPE5、OPE6-8、OPE8-10、OPE12-13は中等度の刺激性を示す」とあり、閾値法による試験の結果の記述に「OPE1、OPE3は軽度の刺激性、OPE5、OPE8-10、OPE12-13は中等度の刺激性を示す」とあることから、中等度の刺激性を有すると考え、区分2Aとした。

呼吸器感作性又は皮膚感作性：情報なし

生殖細胞変異原性：情報なし

発がん性：情報なし

生殖毒性：

・ポリオキシエチレンノニルフェニルエーテル

CERI・NITE有害性評価書 No.96 (2004)、NITE初期リスク評価書　No.96　(2005)の記述から、親動物の一般毒性に関する記述はないが、妊娠率や胚数の減少がみられていることから、区分２とした。

特定標的臓器・全身毒性－単回暴露：

･エチレングリコールエーテル類

ウサギに経口投与により約2000 mg/kg (2130 uL/kg) で死亡が発生し、おおよそ1000～2000 mg/kgで腹臥位となり一過性の無緊張、脱力状態、呼吸促進、麻酔症状に加え腎臓傷害が見られ（DFGOT VII(1992)）、また、本物質の主要な急性症状として中枢神経症状と腎臓傷害が記述されている（DFGOT VII(1992)）。一方、本物質を含む塗料のばく露を受けたヒトで

腎臓傷害が報告されているが（DFGOT VII(1992), BUA Report 204(1977)）、本物質の直接的影響ではなくアルコールとの相乗作用によると指摘されている（DFGOT VII(1992)）。ウサギの試験結果には腎臓傷害の種類と程度について記載がなく詳細不明である。したがって、腎臓の所見については分類できないが、中枢神経症状は区分２とした。

特定標的臓器・全身毒性－反復暴露：

・ポリオキシエチレンノニルフェニルエーテル

実験動物については、「雌の肝臓の相対重量増加、病理組織学的検査で、雌雄の肝細胞の脂肪変化」、「顕微鏡観察で心筋の巣状壊死」（NITE初期リスク評価書 No.96（2005））等の記述があることから、肝臓、心血管系を標的臓器とすると考えられた。なお、実験動物に対する影響は区分2に相当するガイダンス値の範囲でみられた。

吸引性呼吸器有害性：情報なし

１２．環境影響情報

水生環境有害性（急性）：

・エチレングリコールエーテル類

魚類（ブルーギル）の96時間LC50＝1300 mg/L、甲殻類（オオミジンコ）の48時間EC50＞100 mg/L、藻類（セネデスムス）の96時間EC50 ＞ 100 mg/L（いずれもEU-RAR, 1999）。

・ポリオキシエチレンノニルフェニルエーテル

NPE1.5；甲殻類（ミシッドシュリンプ）の48時間LC50=0.11mg/L（CERI・NITE有害性評価書、2005）

・ポリオキシエチレンオクチルフェニルエーテル

藻類(セレナストラム)の96時間EC50=0.21mg/L(CERI･NITE有害性評価書(暫定版)､2006)。

水生環境有害性（慢性）：

・ポリオキシエチレンオクチルフェニルエーテル

急性毒性が区分1､生物蓄積性が低いものの(BCF<31(既存化学物質安全性点検データ))、急速分解性がない(BODによる分解度:22%(既存化学物質安全性点検データ))ことから、区分1とした。

１３．廃棄上の注意

水質汚濁防止法（生活環境項目）及び下水道法（下水の排除の制限）に該当しますので、河川、下水等にそのまま排出することはできません。（非水溶性です。）

本製品を廃棄する場合は、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」及び「都道府県条例」に従ってください。外部処理をする場合は、法律等により都道府県知事の認可を受けた産業廃棄物処理業者に、運搬、処理を委託してください。

汚染容器及び包材：内容物を完全に除去した後に処分してください。

１４．輸送上の注意

自動車、鉄道輸送は消防法による。

国連分類及び国連番号：該当しない。

１５．適用法令

安衛法：非該当

化管法：1種　No.410　ポリオシエチレンノニルフェニルエーテル　7.5%

　　　　1種　No.408　ポリオシエチレンオクチルフェニルエーテル　22.5%

毒劇法：非該当

危規則：非該当
消防法：危険物第４類第３石油類（非水溶性）

１６．その他の情報（引用文献等）
独立行政法人　製品評価基盤機構　「化学物質総合情報提供システム（CHRIP）」
「GHS分類対象物質一覧」

本シートの内容は発行時における知見に基づいて作成したものです。作成の目的は製品の安全に関わる情報を提供するものであって、性能・品質を保証するものではありません。記載事項は今後の知見により改訂されることもあります。記載内容の内、含有量・物理的及び化学的性質などの値は保証値ではありません。注意事項は通常の取扱い対象としたものなので、特殊な取扱いの場合には、この点をご考慮願います。危険・有害性の情報は必ずしも十分ではないので、取扱いには十分注意してください。